

「あいちの茶」振興計画（第9次愛知県茶業振興計画）の概要

～高品質な茶の生産・販売を目指して～

現状と課題

愛知県の生産等の状況

項目	2020年	2024年	増減
茶産出額（億円）※1	12（8位）	16（7位）	4
栽培面積（ha）※2	330（14位）	227（15位）	△103
荒茶生産量（t）※3	577（13位）	554（14位）	△23
てん茶生産量（t）※4	364（13%）	428（8%）	64
生産者数（人）※5	270	198	△72
茶育や体験イベント等への参加者数（人/年）※6	0（コロナ禍のため）	6,302	6,302

※1 農林水産省「生産農業所得統計」
 ※2～4 全国茶生産団体連合会調査 順位は全国順位 %は全国シェア
 ※5 愛知県茶業連合会調査 ※6 県調査

【課題】

- ・生産性の向上と生産者数の減少抑制による産地規模の維持
- ・高品質茶生産による他産地との差別化
- ・夏季の異常高温による収量減及び品質低下への対策

全国の消費及び輸出の状況

項目	2020年	2024年	増減
緑茶購入量（g）※1	827	671	△156
緑茶輸出量（t）※2	5,274	8,798	3,524

※1 総務省「家計調査年報」※2 財務省「貿易統計」

【課題】

- ・消費者の簡便化志向に伴う消費拡大に向けた取組
- ・若い世代へのお茶文化の継承
- ・輸出先のニーズに合った茶生産・販売

施策の展開

【生産振興】

- ・生産性向上を図りつつ、担い手に茶園を集積する。
- ・特色のある付加価値の高い茶生産を進め、競争力を高める。
- ・てん茶産地では、手摘み、棚がけ被覆やれんが造りの三河式てん茶炉による高品質なてん茶生産を維持しつつ、生産規模の拡大に伴い機械摘みを組み合わせ、生産性と収益性を高める。
- ・夏季の高温に対応した栽培体系を確立・普及する。
- ・輸出拡大に向けて、有機栽培体系と平坦地域での残留農薬基準に対応した防除体系を確立・普及する。
- ・GAP手法等を活用した環境に配慮した安全・安心な生産に取り組む。
- ・関係者が連携して、後継者及び新規参入者を育成する体制を整備する。

【需要拡大】

- ・「あいちの茶」のブランド力を強化するため、生産者は高品質茶生産を継続し、茶商を中心に、行政等と一体となって生産者のこだわりや地域の特徴をストーリーとして実需者や消費者に情報発信する。
- ・簡便化志向や本物志向、健康志向など、消費者のニーズに対応した茶を開発する。
- ・輸出先国が求めるロットや品質などに対応した生産・流通体制を整備する。
- ・お茶文化の理解増進を図るため、関係者が連携して、「あいちの茶」を五感で楽しむことのできるイベントの開催や学校での茶育活動などに取り組む。

数値目標【2030年度】

○茶産出額
20億円

茶園継承による面積減少の抑制。生産技術の向上による生産量の増加。優良品種への改植。輸出の増加に伴う需要増による単価向上。

○茶育や体験イベント等の参加者数
6,000人/年

若者を中心に、お茶の淹れ方教室や飲み比べ、石臼挽き体験などの茶育や体験イベントを開催。

2030年度にめざす姿

- ・意欲ある生産者が高品質な茶を生産し、儲かる農業を実現する。
- ・次代を担う生産者が経営感覚を持ち、10年後を見据えた農業生産を行い、活気ある産地づくりをする。
- ・生産者、加工販売業者、行政が連携し、国内外で「あいちの茶」のブランド力を強化し、有利販売を実現する。
- ・若い世代がお茶文化に親しみ、生活のスタイルに合ったお茶の飲み方が広がる。